



「歴史こぼなしの道 菰野コースを歩く」

### 三重郡菰野町

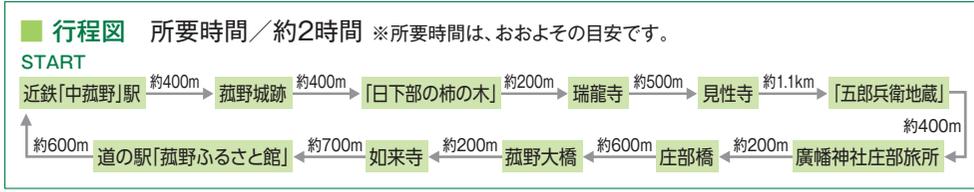
## 菰野界限

御在所山の麓に位置する菰野町菰野界限は、江戸時代を通じて藩主・土方氏が統治する城下町でした。藩主ゆかりの寺社をはじめとして名所・旧跡が点在し、それぞれに昔話や伝承などが語り継がれています。

今回は、平成10（1998）年に菰野町が設定した「歴史こぼなしの道」菰野コースに沿って歩きます。各ポイントには、歴史や謂れが記された石盤が設置されていて、より充実した散策が楽しめるでしょう。



取材・文：中村真由美  
「歴史こぼなしの道」について教えていただいたのは「菰野町図書館 郷土資料コーナー」の学芸員・西山 祐実（ゆみさん）です。貴重な資料も用意していただき、大変参考になりました。



### 藩主・土方氏が築いた城と城下町

今回の散策は、近鉄湯の山線「中菰野」駅から始まって、同駅に戻るコースです。駅舎を後にして、しばらくの間は東へ向かって進みます。左手に智福寺を見た後、さらに歩くと、やがて菰野小学校が姿を現しました。ここが、かつての菰野城。菰野藩の歴史は、慶長5（1600）年に初代藩主の土方 雄氏が徳川 家康から菰野一万二千石を与えられたことに始まります。城郭や藩士の屋敷を整え、町づくりを行ったのは2代目の雄高と3代目の雄豊で、以降、明治4（187



「菰野城址」と刻まれた石碑



「日下部の柿の木」



瑞龍寺境内（左側に建つのが地蔵堂）



16 地蔵堂内部

1）年までの約270年間、12代にわたって土方氏の治世が続きました。現在、城の所在を表すのは「菰野城址」（菰野城跡）と刻まれた大きな石碑などごくわずかですが、今も残る地名「藩内」と1本の柿の木が、藩の痕跡を教えてください。藩内は、城から東に続く通りの両側に藩士の屋敷が建ち並んでいたことに由来します。柿の木は、藩の剣道指南役を務めた日下部家の屋敷に植えられたもの。樹齢は約200年と伝わり、その姿は風格十分です。「武士の家では興入れに花嫁が柿の木の苗木を持参する風習もあったよう

です。木の脇に設置された石盤から「日下部の柿の木」にまつわる歴史こぼなしを教わった後は、さらに東へ。すると、家並みが住宅地から商店街へと変化しました。実は、この「東町商店街」も痕跡の一つ。江戸時代の町人町「東町」が、商店街として受け継がれているのです。各商店のたたずまいに郷愁を覚えながら歩いてみると、瑞龍寺の門前で大きな石盤と愛らしい地蔵尊に気付きました。石盤によると、同寺の石地蔵のために旧暦7月24日に行った供養が、地域内の地蔵盆の始まりになったとのこと。現在では8月24日に行われ、多くの人々

でにぎわう瑞龍寺地蔵堂の地蔵盆は、ここ数年中止となっていて、再開が待たれています。

## 歴代藩主と八重姫が眠る見性寺

瑞龍寺の地藏堂に別れを告げた後は、方向を南へ変えて、2代藩主・雄高が正保元(1644)年に創建した見性寺へ向かいます。豪壮な山門をくぐって奥へと進むと、初代の雄氏を除く歴代藩主の墓が並ぶ墓地が出現。周囲は荘厳な空気に包まれていました。なお、随所に「八重姫」と記した案内板が立っていたことに気付きました。八重姫とは、織田信長の孫娘で、雄氏の正室です。菰野藩は、質実剛健・質素簡約の気風を保ちながら約270年間続きましたが、八重姫は藩の草創期をささえた陰の功労者として知られます。本年3月、「菰野町偉人マンガ制作実行委員会」によって、八重姫の生涯を描いたマンガ「八重姫伝」が完成。同町出身の服部千里さんの画が、気高くも民衆に



「八重姫伝」



見性寺の山門

寄り添った姫の姿を浮き彫りにしています。

## 「五郎兵衛地蔵」と御旅所

菰野の町を見守るようにたたずむ八重姫の墓碑に手を合わせた後は、方向を北へ変えます。菰野高校近くまで歩いてくると、「南部公民館」駐車場脇に、紅白の幟がはため



「五郎兵衛地蔵」



歴代藩主の墓が並ぶ墓地

小さな地藏堂を見つけました。「五郎兵衛地蔵」です。石盤の説明によると、息子の病気が治ったことに感謝して、隠居後に地藏堂のそばに小屋を建てて住み、守り続けたという五郎兵衛さんが、その名の由来となっているのです。

同地藏で心温まる昔話を知った後は、廣幡神社庄部旅所へ。廣幡神社は、初代藩主・雄氏によって造営された土方家の鎮守社。また、旅所(御旅所)とは、神社の祭礼の際に神輿が本宮から渡御して仮にとどまる場所のことで、秋祭りでは、廣幡神社から同旅所まで神輿を運ぶ「神



廣幡神社庄部旅所



庄部橋に架かる庄部橋です。

輿渡御が行われます。なお、廣幡神社へは近鉄「中菰野」駅から南へ歩くこと12分程度で到着。時間に余裕があれば立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

## 菰野大橋からの絶景

庄部橋の南側には、川の流れに平行してジョギングロードが整備されていて、犬の散歩やジョギングを楽しむ人々が行き交います。「春には桜がきれいで、お花見する方も多いですよ」との西山さんの話を思い浮かべながら同ロードを歩くと、やがて見えてくるのが菰野

大橋です。往来する車に注意しながら、同橋の中央辺りに設置されたバルコニーまで進むと、三滝川越しに御在所山や鎌ヶ岳などを望めました。雄大な景観に心洗われた後は、帰途に



菰野大橋からの雄大な眺め※

就きます。その途中で立ち寄りたいのが如来寺と、道の駅「菰野ふるさと館」。前者は延宝3(1675)年に藩の郡奉行・寺西小左衛門政光が創建した名刹です。そして後者の館内には、朝採り野菜や土産物などに加えて、特産品のマコモ関連商品が並びます。



道の駅「菰野ふるさと館」



如来寺

## 問 菰野町「ミニシティ振興課」

TEL 059-3391-1160

観光客だけでなく、地元の人々にも親しまれる道の駅から、近鉄「中菰野」駅までは徒歩数分の距離。各スポットに多彩な物語が息づく「歴史こぼなしの道」散策は、これで「終」です。

※印の写真は取材先から提供していただきました